

1 イランとイラクのイスラーム王朝

・衰退をはじめたアッバース朝は、10世紀以降も存続はしていたが、バグダードの周辺だけを支配する弱小王朝となってしまった。

☆ () (932~1062年)

- ・イラン系シーア派王朝で、946年、アッバース朝から () の称号を得て、イランとイラク両地域を支配した。
- ・このころ、現金で給料を払うアター制が機能しなくなっていた。
→土地の徴税権を与える () を始め、多くの王朝で施行された。

☆ () (1038~1194年)

◆ () (在位 1038~1063年)

- ・中央アジアのシル川流域に成立したトルコ系スンナ派王朝で、1055年、ブワイフ朝を撃退してバグダードに入り、アッバース朝から () の称号を得た。

◆アルプ=アルスラーン (在位 1064~1072年)

- ・1071年、マンジケルトの戦いで () を破り、小アジア(アナトリア半島)に進出した。

◆マリク=シャー (在位 1072~1092年)

- ・宰相の () の補佐により最盛期をむかえた。
→ () を各地に開設し、学問を奨励した。
- ・その後セルジューク朝は、内紛により小さな王朝に分裂して衰退した。
→ルーム=セルジューク朝、()、ザンギー朝などが成立した。



アルプ=アルスラーン

トゥグリル=ベクの甥で、第2代スルタンとなった。名前は「勇猛なるライオン」を意味する。捕えた捕虜を謁見した際に、隠し持っていた短刀で暗殺された。



マンジケルトの戦い

ビザンツ皇帝ロマヌス=ディオゲネスは、味方の裏切りもあって大敗し、セルジューク朝軍に捕えられた。十字軍の伏線となった戦いとも言える。



マリク=シャー

アルプ=アルスラーンの息子で、18歳でスルタンとなった。詩人のウマル=ハイヤームにジャラリ暦の制作を命じたのも彼である。



2 エジプトのイスラーム王朝

・エジプトでは、9世紀後半にトゥールーン朝が自立し、アッバース朝の支配から離れていた。

☆ () (909~1171年)

都… () ※現在はエジプトの首都

- ・909年、()の過激派であるイスマーイル派が北アフリカに建国した。
→969年、エジプトを征服し、新しくカイロを建設して都とした。
- ・カリフを名乗り、アッバース朝や後ウマイヤ朝と対立した(中カリフ国)。
- ・()が創設され、イスラーム教の研究における権威となった。



カイロ

カイロとはアラビア語で「勝利」を意味する。衰退したアッバース朝のバグダードに代わり、イスラーム世界の中心となった。遠くにギザのピラミッドが見える。



アズハル学院

イスラーム法学やギリシア哲学の研究が盛んに行われた。ファーティマ朝滅亡後はスンナ派の教育機関となり、現在でもイスラーム世界最高峰の大学である。



サラフ=アッディーン
イスラーム世界の英雄である。

☆ () (1169~1250年)

都… ()

◆ () (在位 1169~1193年)

- ・1169年、ザンギー朝に仕えていた()将軍のサラディンが、ファーティマ朝を滅ぼしてスンナ派王朝として建国した。
- ・十字軍からエルサレムを奪回し、()を撃退した。
- ・イクター制を導入し、エジプトの経済を安定させた。

☆ () (1250~1517年)

都… ()



バイバルス
第5代君主。隻眼であったとされる。

・()と呼ばれるトルコ系の奴隷軍人が建国し、バイバルスの時代にはモンゴルの侵入も撃退した。

→アッバース朝の一族を擁立し、メッカとメディナを支配して繁栄した。

- ・小麦の生産が増え、サトウキビ栽培による砂糖の生産も普及した。
- ・「 」を中心とする東西交易を抑え、()と呼ばれるムスリム商人を保護して、香辛料や陶磁器を扱った。

→カイロやアレクサンドリアを拠点にして、イタリア商人とも盛んに取引した。

